

1. 「協働のためのルールブック（案）」のレイアウトについて

- ・これで良いと思うが、まず行政目線で考えるのをやめる事。
- ・イラスト等が入り、以前よりも読みやすくなった。
- ・私にとっては内容が多く読むのが少し大変に感じたこともありますが、以前の資料よりはるかに読みやすい内容だったり、ページ数も20枚以内に入っていてかなり良く出来上がっている。
- ・協働の意味から目的、効果または範囲など大切なことをしっかり述べてあったので読みやすかった。
- ・あまえん坊のキャラクターも載せてあったので印象に残る。
- ・また公式ウェブサイトなどから必要な書類がダウンロードの手順もあってよかった。
一つ疑問に思ったが資料だけではなく一緒に動画などの音声があると年配の方にも優しいのではないか。
- ・読みやすくなって良いが、カラーの必要性があるかどうかはお任せします。
- ・とてもすっきりした。
- ・あまえん坊も入ってあま市らしさも出ている。
- ・P2 輪が重なる部分が黄色がかなり濃くなっているのを緑と黄色の中間色になるといいと思った。
- ・P5 基本理念（第3条）の注釈を載せないとのことでしたが、わざわざ調べたりしないと思うので後ろのページに載せるか『どこかに載っています』と誘導するとこの言葉を入れた意味が出てくると思いました。
- ・P6 基本原則の下の文章で『す。』『う。』がひと文字だけ改行の頭に来ているのが気になりました。
- ・P7 協働の進め方の一番初めに相談窓口だと思います。その後ステップに入る。私たちのようなまだ協働をあまりしていない団体にとっていきなり意見交換は難しいです。協働できるのかどうか、できるならこの部署なのか相談が一番初めの一歩だと思うので、この進め方の直ぐ下、協働のステップの上に『相談窓口』を載せてほしい。
- ・よって次の各項目の最後にある『相談先』は全部市民活動センターになっているので『申請先』のみでいい。
- ・他市のルールブックを見るとまちづくり委員の名簿の前に策定の経緯や方針が載っているのですが、あま市は載せないのか
- ・とても見やすくなっている。

- ・先回の委員会にて各部、課間での調整が非常に難しいというお話を伺いました。
- ・企画政策課様の判断でレイアウトについては決定いただければよい。
- ・事前に各部署での調整をしっかりと実施をお願いします。
- ・とてもまとまっていて、見やすい。
- ・わかりやすい表記で読みやすくなった。
- ・見やすくてよい。
- ・大変見やすくまた読みやすくてよい。
- ・チェックシートを別のプリントで添えると良いかと思った。ルールブックに書き込んでしまうと、2回目以降が書き込みづらくなります。
- ・活字の大きさを変化させた事が読みやすくなり、とても素晴らしいルールブックが出来た。

2. 第6期あま市まちづくり委員会について

(1) テーマについて

- ・ ルールブックの早期完成へ
- ・ 事務局案 協働のためのルールブック活用 まちづくり学生参加推進
- ・ どの方のご意見も必要なことで選ぶのが難しいが、ルールブックを作った次期なので、スモールステップとして、協働に対する理解の促進がいい。
- ・ 協働そのものや今回作成した『協働のためのルールブック』を多くの人に知ってもらうことをテーマにするのが良い。そういう意味ではテーマ（案）の中にあつた学生などの若い世代にどう関わってもらうかを考えるのも良い。
- ・ ガイドブックを有効に活用するためにどうすればいいか。
- ・ 第5期の活動内容をもとに、継続性のある、具体的な地域課題に特化した施策の企画立案を行うことが必要。さらに第三者から見たときに適正な評価を受けることができる内容とするべき。
- ・ ルールブックの活用が実際にできているのかの確認や改善がいい。
- ・ 基本的に事務局にお任せします。（事務局案で進めるのが最も妥当です。）
- ・ 「協働のためのルールブック」の活用について
- ・ 今期において、多くの時間と様々な立場からの多くの意見によりできあがったルールブックであるため、是非とも活用してけるとよい。その観点より、事務局案である、「協働のためのルールブック」活用についてをテーマ設定とすることが次のステップである。
- ・ もう一つの観点として、あくまでも「協働」が主目的であり、その手立てとして「ルールブック」が存在すると考えると、今年度できあがったルールブックについて、実際どのように活用されたかとか、使い勝手は良かったかとか、「協働」を行うに際し、「ルールブック」がどれくらい有用であったかを検証または検証する手立てを考えていくとよいと思います。
- ・ 協働によるまちづくりの推進
- ・ 協働のためのルールブックの活用について

※市民活動センターの在り方、必要不可欠である。

(2) 委員会の関わり方について

- ・ルールブックの活用をもっと広げてほしい。委員会で決めた事など市民にわかってもらう様に。
- ・このスピードで、協働のためのルールブックを作成していると、完成がいつになるかわからない。完成した頃には、もっと改正案が必要になっていたりする可能性や変化を求められるかも。
- ・事務局、委員会もしくは委員会所属の団体さん等で模範となるような協働事業を計画し実践してみるのも良い。(学生さんなど若い力を巻き込める事業構築)
- ・意見が二つに割れた時、ハイブリッドな答えや3つ目の新たな答えが出せるといい。
- ・『もっと市民が住みやすい街になる為に』という目的で参加しているので攻撃的なご意見や態度ではなく、できない理由を言うのでもなく、肩書きを外し経験値をもって共に創っていく意識を持って関わり、安心安全の雰囲気を生み出すとよい。
- ・委員会メンバーの中に学生の方や「これから協働を目指す方」を数名入れる必要があると思います。その方たちを軸に議論を進める方が協働の裾野は広がると思います。
- ・なぜならばまちづくり委員会のベースとなる、「あま市みんなでまちづくりパートナーシップ条例に基づき制定」、「あま市まちづくり委員会規則」について共通の認識が持たれていないためだと考えています。
- ・あま市みんなでまちづくりパートナーシップ条例に基づき制定されている、あま市まちづくり委員会規則にまずは立ち戻る必要がある。
- ・その上で3年、5年、10年、20年それぞれの将来においてあま市をどのようにしたいか、どのようにするべきかを議論する必要がある。
- ・そのうえで、まちづくり委員会として具体的なゴールを設定する必要がある。例えばKPI. KGI. KSFなど目標設定を明確にすることも必要。
- ・あま市職員の方も個別にお話を伺うと非常に前向きに、建設的なお話ができる方がたくさん見え、あるべき姿に向けて協働していくことができるのではないかと考えています。しかしながら実際にPDCAをまわしながら形にすることができているかという点では非常に疑問が残ります。できた書類の言葉尻や体裁は本来委員会で議論すべき内容ではないと思います。大卒の考え方や課題に対するアドバイザリーボードとしての役割をまちづくり委員会は担うべきだと考えます。
- ・その具体的な活動としてあま市主催事業の企画運営などを通じて形に残る結果を残すことも必要ではないかと考えています。今のままのまちづくり委員会では存在意義に疑問があり「ただ開催しているだけ」と市民からとられても致し方ないとも考えられます。
- ・絵を描くことも必要ですがそれを実行に移すためにどうするか、市民がよりまちづくりにかかわるため真剣に検討する必要がある。
- ・実際にルールブックを使用して協働を実施した人から、意見を聞く。さらに、実施例をとして、過去実施した協働テキストを作成する(協働への思い、実際に行ったこと、気を付けたこと、協働を試みて思ったこと等)
- ・これを作ることで、まだ協働をしていない方への協働のイメージをしてもらい身近に感じてもらう。そして、またルールブックを活用してもらう。
- ・市民団体などの現状を把握して、活用方法などを具体的に示すことが必要で、活用方法についての調査・検討が必要です。
- ・広く地域住民にも「ルールブック」作成の意義などが理解できるように広報するようにしたい。

- ・第2期で作成された「ガイドブック」を再度見直すべき。
- ・市民協働がよりよく進むように、市民活動団体の現状把握をし、せっかく作ったルールブックのより効果的な周知の方法を探り、活用状況の把握と、その状況に対する改善をはかり、効果を上げていただけるとよい。
- ・もし、来年度のテーマが「協働のためのルールブック」活用についてであるとすれば、それぞれの立場から（1）に挙げたことについて、意見交換・情報交換を行っていくとよい。（学校の立場としては、ルールブックにどのように関わっていくかは悩みますが…）その中で、ルールブックが有効に活用され、よりよいものに改善されていく中で、協働の活性化につながればよいのではないだろうか。
- ・会議内容を打ち出して、委員の募集をする。
2で決まった議題をどう進めて行くか委員長を中心に委員で決める。（委員長一任でも良い）
- ・事務局は、あくまでも事務局であり、サポートに徹する。
- ・会議には、別の課の職員が参加する日を設けて、その課で協働できる可能性のある事業を考えて貰う。
- ・私自身もまだまだ勉強不足ですので、共に学び、共に考える良き相談相手になる。